

呉共済病院 公的医療機関等 2025 プラン 主な変更点

新 (R4.3 改定)

【2 今後の方針】

② 今後持つべき病床機能等

現在の高度急性期病棟、急性期病棟は維持する必要があるが、CCU病床として6床のハイケアユニット化を検討する。また、地域包括ケア病棟或いは開業医から要望がある「がんの緩和ケア病棟」の整備について検討する。

地域医療構想における呉医療圏の病床機能では、2025年の機能別の必要病床数は回復期が不足していることから、当院としては地域医療構想の一翼を担うために、回復期の地域包括ケア病棟を設置する。

地域包括ケア病棟を設置するためには、400床未満の許可病床とすることから、休床となっている一般病床（21床）及び結核病床（22床）の計43床を返還する。

病床返還のうえ、急性期である一般病床の一部（39床）を回復期へ転換する。
病棟編成を検討した結果、予定していた回復期39床を34床に見直した。

なお、資金については自己資金に加えて、補助金（広島県病床機能分化・連携促進基盤整備事業）を活用して整備する。

令和4年3月に34床を回復期へ転換したため、補助金（広島県病床機能分化・連携促進基盤整備事業）は辞退した。

【3 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

区分	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	60床	→	60床
急性期	313床		279床
回復期	0床		34床
慢性期	0床		0床
(合計)	373床		373床

旧 (R3.9 改定)

【2 今後の方針】

② 今後持つべき病床機能等

現在の高度急性期病棟、急性期病棟は維持する必要があるが、CCU病床として6床のハイケアユニット化を検討する。また、地域包括ケア病棟或いは開業医から要望がある「がんの緩和ケア病棟」の整備について検討する。

地域医療構想における呉医療圏の病床機能では、2025年の機能別の必要病床数は回復期が不足していることから、当院としては地域医療構想の一翼を担うために、回復期の地域包括ケア病棟を設置する。

地域包括ケア病棟を設置するためには、400床未満の許可病床とすることから、休床となっている一般病床（21床）及び結核病床（22床）の計43床を返還する。

病床返還のうえ、急性期である一般病床の一部（39床）を回復期へ転換する。

なお、資金については自己資金に加えて、補助金（広島県病床機能分化・連携促進基盤整備事業）を活用して整備する。

【3 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

区分	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	60床	→	60床
急性期	313床		274床
回復期	0床		39床
慢性期	0床		0床
(合計)	373床		373床